

群 教 セ	G15 - 01
	平 28.260 集
	高 - キャリア

平成 28 年度長期社会体験研修報告書

研修先：株式会社ミツバ

長期社会体験研修員 吉田 剛久

I 研修内容

1 研修先の概要

株式会社ミツバは、1946 年 3 月に株式会社三ツ葉電機製作所として設立され、今年で 70 周年を迎える自動車部品メーカーである。創業当時は、自転車用発電ランプの製造・販売からスタートし、現在は、自動車電装部品の開発・製造・販売を世界規模で展開している。本社は、桐生市にあり、国内 21 拠点、海外 17 カ国 31 拠点到展開しているグローバル企業である。代表的な製品は、エンジンを始動させるスタータモータやワイパーシステム、自動車の窓の開閉を行うパワーウインドモータなどが挙げられる。

2 研修先での主な研修内容

(1) 階層別教育研修【4 月 1 日～10 月 3 日、1 月 5 日～3 月 24 日】（研修場所：本社、研修会場）

階層別教育研修では、主に大学卒業新入社員や入社間もない若手社員の研修に参加した。その中で会場設営や資料の準備、配布等の補助業務を行うとともに本研修を受講した。また、管理職を対象とした研修にも参加し、立場に応じた能力を高める取組も学んだ。

(2) 新規採用研修【5 月 6 日～10 月 3 日、1 月 5 日～3 月 24 日】（研修場所：本社、各出張先）

新規採用研修では、主に大学及び高等学校卒業予定者の採用業務に携わった。応募者の書類の整理や面接会場の設営、面接の際に必要な資料の印刷準備、筆記試験対応を行った。高等学校卒業予定者の採用業務では、採用計画の立案や求人票の作成などを行い、採用試験当日の運営にも携わった。

(3) 地域貢献活動研修【5 月 6 日～8 月 6 日】（研修場所：本社、新里工場）

地域貢献活動研修では、地域貢献を目的に、毎年、大学卒業新入社員全員が桐生八木節まつりのジャンボパレードに参加している。企画段階から参加し、助言や支援を行った。また、練習会場の設営やパレードの振付け練習、御輿製作の補助などの業務に取り組んだ。

(4) 生産実習研修【10 月 4 日～12 月 28 日】（研修場所：新里工場、研究開発センター）

生産実習研修では、新里工場や研究開発センターで製品製造に関わる研修に参加した。新里工場では、モータの組付けラインでの作業や工場内の設備メンテナンスの業務に携わった。また、研究開発センターでは、主に製品の量産に欠かせない金型の加工技術から今後の市場を考えたモータの研究・試作などを学んだ。

3 キャリア教育実践

(1) キャリア教育資料について

工業高校の多くの生徒は、進路先として製造業に就職する。そのため、進路選択の際に参考となるような資料を作成した。具体的には、高等学校卒業採用者の職種や製造ライン以外での活躍の場の紹介、製造業における人材育成制度や製造業が求める人材を紹介する内容とした。

(2) 実践の概要（県立伊勢崎工業高等学校）

①授業実践

題材名 「高校生の今、身に付けておきたい力～チームワークゲームから学ぶ～」(LHR 活動)

対 象 機械科第 1 学年 1 組 40 名 機械科 1 学年 2 組 40 名

所属校では、毎年約半数以上の生徒が就職を選択し、企業へ就職する。そこで、本研修を行う中

で感じた「社会人として必要な力」として、チームワーク（協調性）やコミュニケーション能力の大切さを伝え、高校生の今から意識して欲しいと考え、授業実践を行った。

②校内研修

所属校への情報提供を目的に「㈱ミツバにおける職場改善の取組と求められる人材」という題名で校内研修を行った。職場改善の取組として、「2S3定」（整理・整頓、定位置・定品・定量）や「見える化」、PDCAサイクルやQCD（品質・コスト・納期）を紹介した。また、研修先の社員の声を所属校職員へ伝え、今後の生徒指導の一助とした。

Ⅱ 研修成果

1 階層別教育研修について

階層別教育研修では、それぞれの立場を考えた能力の向上を図り、CSR（企業の社会的責任）やコンプライアンス教育など、企業の人材育成法について学ぶことができた。各研修では、グループワークを取り入れ、仕事を行う上で人との関わりを意識させていると感じた。管理職を対象とした研修では、コーチングやアサーションなどのヒューマンスキルを身に付けることで、部下の指導や組織をまとめる力として生かすなど、立場に応じた研修を実践していることを知ることができた。

2 新規採用業務について

新規採用業務では、企業がどのような人材を求めているかを学ぶ良い機会となった。どのような業務を行うにしても必ず必要な力としてコミュニケーション能力がある。相手の話に耳を傾け（聞き上手）、話の内容を理解し自分の意見をまとめ、発表する力（話し上手）が求められている。学校現場でもコミュニケーション能力が必要だと言われているが、社会人としても必要な力であることを確認することができた。

3 地域貢献活動研修について

地域貢献活動研修では、企業が地域社会に参画し、活動していることを学んだ。企画立案から当日のパレード参加までを新入社員と取り組むことで、絆を深めることができた。その中で、企業は利益追求が大きな目的ではなく、地域と密接に関わることで、企業を存続させていることに気付いた。地域社会の一員として、社会に溶け込む姿勢を持ち、地元に根ざした企業活動を行っていることを学ぶことができた。

Ⅲ まとめ

本研修では、企業が求める人材や社員教育の在り方について学ぶことができた。その中で、企業が大切にしていることは、人であり、人を育てるということであった。このような企業の社員教育と学校での教育は同様であり、改めて人を育てる上で、チームワーク（協調性）やコミュニケーション能力の大切さを感じることができた。

また、製造現場では、安全作業や生産性の向上などを重視しているが、特に「後工程はお客様」といった他者への思いやりを大切にしていることを学んだ。このような企業の取組を生徒に伝え、生徒の将来の活躍に生かしたい。

学校での教育活動は、卒業後の生徒の活躍に大きく関わっていると感じた。研修先では、卒業生が学校で学んだことを生かし、一生懸命に働いている姿を見る機会があった。その姿から学校で学び、企業で生かす、という学校と企業の繋がりを考えるきっかけとなった。

本研修を通して、多くの方々にお世話になり、様々なことを教えていただいたことに感謝したい。学んだことを生徒への指導や支援に活用するとともに、学校組織の活性化のために生かしていきたい。

（担当指導主事 賛田 秀樹）